



明化の教育

10月号 (第471号)
令和元年10月1日
文京区立明化小学校
校長 溝畑 直樹



明化小学校145周年を迎えて

副校長 松下 由紀子

校庭の埋蔵文化財調査もほぼ終え、以前同様の校庭が戻ってきました。子どもたちも新しい芝生での久しぶりの校庭使用を喜んでます。

先週は、145周年記念集会にご参会いただきありがとうございました。今回は本校の卒業生を来賓としてお招きし、子どもたちの知らない明化小学校のお話を伺う貴重な時間となりました。また、子どもたちも145歳になる学校をお祝いしようと一生懸命準備を重ねていました。出し物や会全体を通してその思いは伝わりましたでしょうか。子どもたちを中心として行った本集会を楽しんでいただけましたら幸いです。



145年。明化小学校は開校から現在まで、明治、大正、昭和、平成、令和と5つの年代を経ています。長い歴史の重みを深く感じるとともに、その間の歴史的に大きな出来事も乗り越え、歴代の子どもたちが入学・卒業と時をつなぎ歳月を重ねた145年の歴史の中に、今の在校生がいられることに感謝をするとともに誇らしく思います。

歴史と言えば、明化小学校の伝統は何だと思われませんか。本校の教育目標である「明化の子どもはやり通す」の唱和は6年生が連綿と受け継いでいます。また少し考えても、静心の鐘、校舎、器楽部、俳句等次々と考えられますが、思い浮かぶものが伝統と認識されるまでには、様々な紆余曲折があったことは想像に難しくありません。それでもこれらの活動が続けられたのは、子どもたち、先生方はもちろん、保護者、地域の方、文京区教育委員会等様々な尽力のもと成し遂げられていることを忘れることはできません。

また、明化小学校は145年の歴史の中で一万六千人超の卒業生を輩出しておりますが、今も時々、卒業生が学校に立ち寄られます。145年の歴史のため訪れる方の年齢は様々ですが、母校への強い思いを語られる方が大勢いらっしゃいます。本校が卒業生の心の拠り所であり、ふと立ち戻りたくなる思い出の場所だと認識されていることを大変有難く感じました。このような学校となるよう大切にしてくださいました先人に深い感謝の念を抱くとともに、時代、社会が変わる中でもその精神を引き継いでいけるよう、保護者・地域の方等と連携して教育活動の充実に取り組んでいきたいと思ひます。

この一年を通して、在校生は明化小学校の築き上げたものの素晴らしさを見つめる、よい機会となりました。今在学している子どもたちは、145周年、校舎改築と明化小学校の歴史の中でも大きな節目に当たり、歴代の明化小学校の子どもたちの中でも、まれにみる貴重な体験をしているところですが。伝統を日々受け継ぎ改めて紡いでいながら、この子たちが大人になったとき、自分の子どもやその時の児童に小学校時代に体験したたくさんのことを語り継ぎ、明化小学校の益々の発展に寄与してくれる人として成長してくれることを期待しています。